

妙安寺だより

NO 198 号



秋季彼岸会

9月20日(日) ①11:00～

21日(月) ①11:00～ ②14:00～

23日(水) ①14:00～

【彼岸の中日】



お彼岸は、23日の中日を挟んで、前後3日間の計7日間続く仏法聴聞期間です。彼岸の中日は、太陽が真西に沈みます。陽の沈む西の彼方に仏様の世界はあると言われ、先人は彼岸期間に自らのいのちの帰る場所に思いを寄せてきました。そして、同時に、手を合わすなかから自らの人生のこれまでの道のり

で出会った様々な人や言葉を思い返しつつ、「私」という存在を捉え直す時間としてきたのです。自分を見つめ直す、そのような時と場を大切にしたいものです。



報恩講案内

11月21日(土)
どなたでも参拝できます

報恩講とは、浄土真宗を顕かにされた親鸞聖人のご法事です。聖人は、「南無阿弥陀仏」の念仏を伝え、1262年11月28日に90年の生涯を終えられました。私達が亡き方に手を合わせてお参りするご縁の原点が親鸞聖人なのです。その聖人を訪い、聖人が示された手を合わせる願いを確かめる大切なお参りが報恩講なのです。
是非、お参りください。

※郵便振込票（00360-7-9124 妙安寺）は当日参詣出来ない方の為です。

【法要日程】

21日 13:00～ 受付開始

13:30～ ご法話 住職

14:30～ 報恩講



昨年の様子

昨年に引き続き、今年も私がお話をさせていただきます。今年は、法名を授与する儀式である「帰敬式（おかみそり）」についてお話をさせていただきます。ぜひ、お誘いあわせの上、ご参拝ください。

おみがきは11月14日(土)13:00～
大房地区の皆様、よろしくお願い致します。
有志の方もお待ちしています

連載「仏教のおしえ = 十二光（じゅうにこう）=」



今月は『正信偈』にある「**不断難思無称光**」の仏様の具体的なはたらきを表す 12 の光のうち、9 つ目の^{ふだんこう}「不断光」です。「不断の光=途絶えることのない光」です。

親鸞聖人が作られた和讃に

光明照らしてたえざれば 不断光と名づけたり

聞光力のゆえなれば 心不断にて往生す

【意識】 仏様の光明は、途絶えることなく照らしておられるので「不断光」と呼ばれる。光（教え）を聞くことで、聞いた教えが生活の力となる。その心（思い）を常に持ち続けて歩んでいこう。

「有頂天」という言葉があります。「天」とは、「天上界」のことで、一時的に苦悩がなく快樂の世界のことです。自身の思い通りになり、喜びの極みにいたった状態です。そんな全てがうまくいっている時ほど、仏教に耳を傾けることなどありませんね。しかし、そういう世界からはアッという間に転がり落ちて地獄のような苦悩が待っているものです。そうなった時、藁をもすがる思いで仏教に耳を傾ける縁が結ばれることがあります。有頂天の時も地獄の苦悩の中も、等しく途絶えることなく私を照らす光（教え）があり、右往左往するからこそ、右往左往することを教えてくれる教えを要にして歩んでいきましょうと聖人は詠っておられるのです。

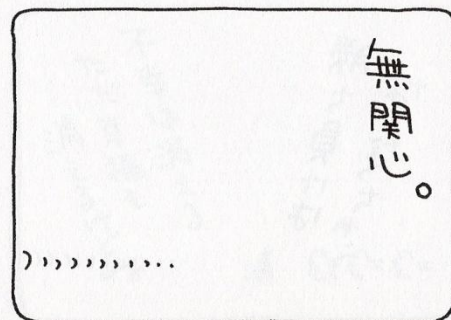
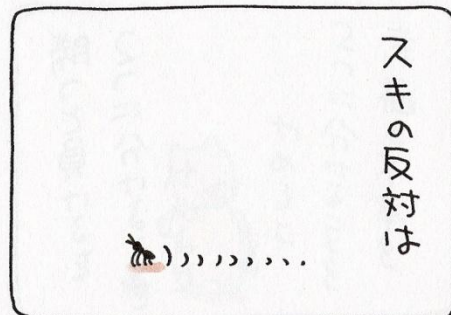
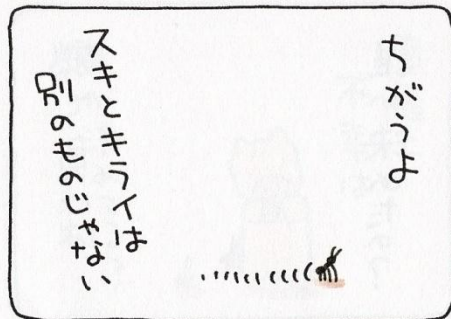
どんな時も教えを聞き続け、その教えを生活の力にしていく歩みを共にしたいものです。

【夏の子供会 報告】

今年の子供会も大盛況でした！子供たち40人、親御さん入れて約80人の今までで一番大きくなりました！！約9mのなが〜い竹で流しそうめんや11種類のシロップを自由を選ぶかき氷、本堂内での縁日遊びなど、子供たちの笑い声でお寺が包まれた感じです。スタッフはじめご参加いただいた親御さんにご協力をいただき、無事に終えることができました。ありがとうございました。来年も開催します。お誘いあわせの上、参加ください。



好きの反対は？



【篤志寄付ご報告】

6月 7日 お仏供米30kg

小 山 逆井 康志様

8月12日 仏具代20万円

大 房 沼尻 勝美様



曼珠沙華

金子みすゞ

地面のしたに

棲むひとが

線香花火を

たきました

あかい あかい

曼珠沙華

令和8年9月7日

真宗大谷派(京都・東本願寺)

妙 安 寺

0297 (34) 3116

ホームページ <http://www.myouanji.net>



門信徒及びご縁のある方々 各